

Munididae チュウコシオリエビ科

***Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933)** ハバヒロチュウコシオリエビ (新称)
(図 62)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 80 m, けた網, 2019年9月10日, 1メス (pcl 5.4 mm), TRPM-801.

分布. 日本 (鳥取県, 山口県, 対馬東岸, 五島列島北方), 韓国 (Komai et al., 2002; Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 砂泥底; 水深 79–117 m (Komai et al., 2002; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020).

備考. Yokoya (1933, *Munida brevirostris* として報告)の原記載以降, 本種の形態的特徴を示した報文は, 対馬東岸から得られた同一標本に基づいた Baba (1970)と Baba and de Saint Laurent (1996)に限られる. *Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933)のタイプ (模式)標本は失われているとみなされている (Baba, 1970). Osawa and Ota (2020: fig. 3I)では, 鳥取県産の標本に基づき, 本種の生鮮時の画像が示されている (図 62に転載).

Bathymunida は, チュウコシオリエビ科において, 甲が比較的幅広い種で構成されていることから, 本属の標準和名を「ハバヒロチュウコシオリエビ属」とすることを提唱する. 加えて, 本種の標準和名を「ハバヒロチュウコシオリエビ」とする. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-801)を指定する.



図 62. *Bathymunida brevirostris* (Yokoya, 1933) ハバヒロチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, メス (pcl 5.4 mm).

***Grimothea princeps* (Benedict, 1902) オオコシオリエビ**

(図 63)

調査標本. 島根県. 浜田市沖, 35°13.4'N, 132°05.5'E, 水深 141 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2012 年 12 月 17 日, 1 オス (pcl 50.4 mm), SNMH. 浜田市沖, 35°02.5'N, 132°06.0'E, 水深 107 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2013 年 2 月 18 日, 1 オス (pcl 46.7 mm), SNMH.

分布. 日本 (太平洋側: 宮城県石巻市金華山沖, 駿河湾; 日本海側: 山形県沖, 島根県沖; 鹿児島県南方), 東シナ海, 韓国, 台湾, ルソン島北方沖 (Takeda, 1997; 三宅, 1998; Baba et al., 2009; 大澤ほか, 2014; Kim and Kim, 2017; いずれも, *Cervimunida princeps* として報告).

生息場所. 緑泥底; 水深 76–452 m (Baba et al., 2009, *Cervimunida princeps* として報告).

備考. オオコシオリエビはその和名のとおり, オスの最大甲長が 60 mm ほどに達する大型種である (Baba et al., 2009). 本種は, *Cervimunida* に属するとされていたが (たとえば, 三宅, 1998; Baba et al., 2009), Machordom et al. (2022)によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Grimothea* に移され, *Cervimunida* は, *Grimothea* の新参異名 (junior synonym)と判断されている.

駿河湾や土佐湾では, 本種は深海底曳網で漁獲され, 食用として市場や販売店に並ぶことがある.



図 63. *Grimothea princeps* (Benedict, 1902) オオコシオリエビ, 島根県浜田市沖, オス (pcl 50.4 mm).

***Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894) ミットゲザラザラチュウコシオリエビ**
 (図 66)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (pcl 6.6 mm), 1 抱卵メス (pcl 7.9 mm), TRPM-790. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 メス (pcl 6.2 mm), TRPM-791. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 120 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 メス (pcl 6.3 mm), TRPM-792.

分布. 日本 (鳥取県), 台湾, フィリピン, アンダマン海, オーストラリア北西部, モルジブ, アラビア海 (McCallum et al., 2016; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底; 水深 100–384 m (McCallum et al., 2016; Osawa and Ota, 2020).

備考. Osawa and Ota (2020)は, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖で採集された本調査標本に基づき, *Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894)を日本初記録として報告した. Komai et al. (2002)は, ザラザラチュウコシオリエビ *Paramunida scabra* (Henderson, 1888)を長崎県壱岐島の北東から記録しているが, 日本海から記録されている同属種は, 現時点でミットゲザラザラチュウコシオリエビに限られる.



図 66. *Paramunida tricarinata* (Alcock, 1894) ミットゲザラザラチュウコシオリエビ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (pcl 7.9 mm).

***Trapezionida agave* (Macpherson and Baba, 1993) ハヤトチュウコシオリエビ (新称)**
(図 64)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 2 オス (pcl 5.9, 6.0 mm), TRPM-786. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 70 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 抱卵メス (pcl 7.5 mm), TRPM-787. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 抱卵メス (pcl 7.4 mm), TRPM-788. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 70 m, けた網, 2019 年 4 月 17 日, 1 メス (pcl 5.3 mm), TRPM-789.

分布. 日本 (相模湾, 鳥取県, 鹿児島県), フィリピン, インドネシア (Macpherson and Baba, 1993; Baba, 2005; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida agave* として報告).

生息場所. 硬い基底, 岩, 砂泥底; 水深 89–549 m (Baba, 2005; Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida agave* として報告).

備考. Macpherson and Baba (1993) は, チュウコシオリエビ *Munida japonica* Stimpson, 1858 および当種と形態が類似する既知種 (サガミチュウコシオリエビ *M. heteracantha* Ortmann, 1892; *M. semoni* Ortmann, 1894; スジチュウコシオリエビ *M. honshuensis* Benedict, 1902) の分類の混乱解決を図るとともに, 13 新種を記載した. 本種は, その 13 新種の中の 1 つである. 本種は, Machordom et al. (2022) によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Munida* から新属 *Trapezionida* に移された.

本種の日本産のパラタイプ (副模式標本) の産地は, 鹿児島県枕崎沖である. そして, 本種の種小名は, ギリシャ神話に登場する海に棲む女神の一人 (Agauē または Agave) にちなんでいる (Macpherson and Baba, 1993). 本種の標準和名については, 日本産のパラタイプの産地と日本神話を関連付け, 「ハヤト (隼人) チュウコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-787) を指定する.



図 64. *Trapezionida agave* (Macpherson and Baba, 1993) ハヤトチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (pcl 7.5 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

***Trapezionida pherusa* (Macpherson and Baba, 1993) シロツノチュウコシオリエビ (新称)**

(図 65)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 オス (pcl 6.6 mm), 1 抱卵メス (pcl 7.7 mm), TRPM-802. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 性未確認個体 (pcl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (鳥取県, 山口県, 対馬沖, 九州西方), 韓国, 台湾, フィリピン, インドネシア (Macpherson and Baba, 1993; Komai et al., 2002; Kim and Kim, 2017; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida pherusa* として報告).

生息場所. 砂泥底; 水深 73–167 m (Baba et al., 2008; Osawa and Ota, 2020; いずれも, *Munida pherusa* として報告).

備考. ハヤトチュウコシオリエビ (新称) *Munida agave* Macpherson and Baba, 1993 と同様, 本種は Macpherson and Baba (1993) によって記載された 13 新種のうちの 1 つである. 本種は, Machordom et al. (2022) によるチュウコシオリエビ科全体を網羅した系統学的研究に基づき, *Munida* から新属 *Trapezionida* に移された.

額角および眼上棘の基部が白色であることにちなみ, 本種の標準和名を「シロツノチュウコシオリエビ」とすることを提唱する. 和名の基準となる標本には, 本報の調査標本 (TRPM-802, オス, pcl 6.6 mm) を指定する.

鉗脚の長さは, 雌雄間で性差がある (図 65A, B).



図 65. *Trapezionida pherusa* (Macpherson and Baba, 1993) シロツノチュウコシオリエビ (新称), 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (pcl 6.6 mm) (A); 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 抱卵メス (pcl 7.7 mm) (B).

Porcellanidae カニダマシ科

Enosteoides ornatus (Stimpson, 1858) トゲカニダマシ

(図 67)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 水深 3 m, 転石下, 2015 年 8 月 10 日, 1 抱卵メス (cl 5.2 mm), SNMH.

分布. パキスタンから日本にかけてのインドー西太平洋の広域 (北限は日本および韓国, 南限はオーストラリア; Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010). 国内の分布は, 太平洋側では房総半島から瀬戸内海, 日本海側では青森県 (深浦町) および島根県, そして九州では福岡県 (沖ノ島), 熊本県 (天草市) (Miyake, 1943, *Porcellana ornata* として報告; 内田ほか, 1971, *P. ornata* として報告; 大澤, 2000; 大澤ほか, 2016).

生息場所. 転石下, 死サンゴ, カイメン類; 潮間帯から水深 54 m (Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010). 調査標本は, 水深 3 m の砂泥底の転石下から得られた (大澤ほか, 2016).

備考. 日本沿岸から記録されているトゲカニダマシ属 *Enosteoides* Johnson, 1970 は, トゲカニダマシ, サンゴカニダマシ *E. melissa* (Miyake, 1942), ツノカニダマシ *E. lobatus* Osawa, 2009, パラオカニダマシ *E. palauensis* (Nakasone and Miyake, 1968) の 4 種を含む (Osawa, 2009). 日本国内の分布については, トゲカニダマシが本州から九州にかけて記録されている一方, 他の 3 種は琉球列島のみから知られている (Osawa, 2009; 大澤, 2012).

トゲカニダマシは動きが鈍く, 転石下にじっと張り付いており, 体全体が淡褐色と目立たない色彩をしている。



図 67. *Enosteoides ornatus* (Stimpson, 1858) トゲカニダマシ, 島根県松江市島根町加賀桂島, 抱卵メス (cl 5.2 mm).

***Pachycheles hertwigi* Balss, 1913** バルスカニダマシ

(図 68)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 湾内, 魚養殖いかだの付着物中, 2013年5月30日, 4抱卵メス (cl 6.8–8.4 mm), SNMH. 兵庫県. 新温泉町釜屋沖, 2006年9月4日, 5オス (cl 4.0–6.4 mm), 1メス (cl 4.8 mm), 2抱卵メス (cl 5.9–6.4 mm), TRPM-CB-0000127.

分布. 韓国, 日本 (太平洋側: 相模湾, 和歌山県田辺湾; 日本海・東シナ海側: 新潟県, 兵庫県, 島根県, 福岡県) (Miyake, 1978, *P. balssi* Miyake, 1943 として報告; Ko, 1999; 本間・鶴田, 2004; 大澤ほか, 2014; 本報).

生息場所. 岩礁, カイメン類と共生; 水深 4–55 m (Nakasone and Miyake, 1968, *P. balssi* として報告; Miyake, 1978, *P. balssi* として報告; 峯水, 2002).

備考. 本種の学名の妥当性については, 大澤ほか (2014)が論じている. Balss (1913)は, *Pachycheles hertwigi* を新種名として提唱していない可能性が有るため, 三宅 (1982: 203)によって同物異名として扱われた *Pachycheles balssi* Miyake, 1943 が有効名となるかもしれない. 本報では暫定的に三宅 (1982)に従い, バルスカニダマシの学名を *P. hertwigi* とする.

島根県出雲市十六島漁港の湾内では, 魚養殖いかだの付着生物中から, コブカニダマシ *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858 とともに, 本種が採集された.



図 68. *Pachycheles hertwigi* Balss, 1913 バルスカニダマシ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (cl 8.4 mm).

Pachycheles stevensii Stimpson, 1858 コブカニダマシ

(図 69)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町菅浦, 水深 1 m, 転石下, 2011 年 8 月 13 日, 2 オス (cl 6.9, 7.4 mm), SNMH. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 湾内, 魚養殖いかだの付着物中, 2013 年 5 月 30 日, 9 オス (cl 5.2–9.5 mm), 1 メス (cl 5.3 mm), 9 抱卵メス (cl 6.4–10.0 mm), SNMH. 鳥取県. 東伯町 (琴浦町) 逢束沖合 40 m, 水深 4–5 m, 1990 年 8 月 1 日, 2 乾燥性未確認個体 (cl 未測定), TRPM (未登録). 兵庫県. 新温泉町釜屋沖, 2006 年 9 月 4 日, 39 個体 (1 オス, cl 8.7 mm; 1 抱卵メス, cl 7.9 mm を含む), TRPM-CB-0000128.

分布. 日本 (北海道から九州まで), 韓国, ウラジオストック (朝倉, 1995; 三宅, 1998; Kim and Kim, 2017).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 7 m (朝倉, 1995; 三宅, 1998; 峯水, 2002).

備考. コブカニダマシは, 動きの素早いイソカニダマシ属 *Petrolisthes* Stimpson, 1858 の種とは異なり, 動きが鈍く, 転石下やその他の生息基底上で静止していることが多い. 島根半島では, 岩礁の潮下帯浅部の転石域において確認できるが, 個体数は少ない. 同所では, 「カニ型」の異尾類としてヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849) の個体数が多く, 目立つ.



図 69. *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858 コブカニダマシ, 島根県出雲市十六島町, 抱卵メス (cl 10.0 mm).

***Petrolisthes coccineus* (Owen, 1839) オオアカハラ**

(図 70)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 転石下, 2013 年 11 月 22 日, 2 オス (cl 6.6, 6.8 mm), SNMH.

分布. インドー西太平洋の広域から散在して記録されている. 記録の北限は日本 (太平洋側: 房総半島から九州, 伊豆諸島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 島根県, 福岡県沖ノ島・津屋崎, 熊本県天草市; 琉球列島), 南限はインドネシア, 西限はアフリカ東岸, 東限はツアモツ諸島・ハワイ諸島 (Miyake et al., 1962; Miyake, 1978; Osawa and Chan, 2010; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 7.2 m (峯水, 2002; Osawa and Chan, 2010).

備考. 本種は, 日本沿岸沿岸で確認されているカニダマシ科のうち最大となり, 成長したオスでは甲長が 20 mm, 左右の鉗脚の腕節の両端の長さが 80 mm に達する (大澤, 2000). 調査標本は, まだ十分に成長していない小型個体である (大澤ほか, 2014). 調査標本の採集地では, 春期から夏期において出現が確認されていないため, 本種は秋期に当地に定着した後, 越冬できていない可能性がある.



図 70. *Petrolisthes coccineus* (Owen, 1839) オオアカハラ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (cl 6.8 mm).

***Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) イソカニダマシ**

(図 7F, 71)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010年5月19日, 1オス (cl 7.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, 転石下, 2013年4月5日, 2オス (cl 8.9, 9.5 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 転石下, 2013年11月9日, 2オス (cl 8.4, 8.7 mm), SNMH. 松江市美保関町片江, 潮間帯, 転石下, 2011年4月29日, 1メス (cl 9.1 mm), SNMH. 鳥取県. 岩美町羽尾, 2010年2月9日, 1オス (cl 7.9 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (房総半島・青森県西岸から九州まで, 琉球列島, 小笠原諸島), 台湾, 韓国, 中国 (浙江省, 香港, 広西) (三宅, 1998; Osawa and Chan, 2010).

生息場所. 岩礁, 転石下; 潮間帯から水深 3 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; Osawa and Chan, 2010).

備考. イソカニダマシは, 千葉県から鹿児島県までの太平洋岸での岩礁の潮間帯転石域において, 最も普通に確認できるカニダマシ類である (Miyake, 1978; 朝倉, 1995; 大澤, 2000). 著者の採集経験に基づくと, 島根半島の岩礁の潮間帯転石域において確認できるが, 太平洋岸に比べると明らかに出現個体数が少ないと判断される.

本種は, 転石の下面に張り付いており, 捕まえようとすると, 石の表面を滑るように素早く移動する. 加えて, 鉗脚をつかむと自切しやすく, その鉗脚を残して逃げてゆく.



図 71. *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) イソカニダマシ, 島根県松江市島根町小具, オス (cl 9.5 mm), 背面 (A); 同, 腹面 (B).

***Pisidia serratifrons* (Stimpson, 1858) フトウデネジレカニダマシ**

(図 72)

調査標本. 島根県. 松江市境水道, 底曳網, 2010年3月24日, 16オス (cl 3.7–9.2 mm), 29メス (cl 3.3–8.4 mm), SNMH. 鳥取県. 東伯町 (琴浦町)逢東沖, 1991年7月8日, 1乾燥オス (cl 5.2 mm), 1乾燥メス (cl 4.3 mm), TRPM (未登録). 東伯町 (琴浦町)逢東加勢蛇川河口, 1991年9月1日, 1乾燥オス (cl 4.7 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (大阪湾, 瀬戸内海, 新潟県, 島根県, 鳥取県, 福岡県, 長崎県, 熊本県), 韓国, 黄海, 朝鮮海峡 (対馬海峡), 台湾海峡, 東シナ海, 南シナ海, 香港 (Miyake, 1943; Honma and Kitami, 1978; 有山ほか, 1997; Osawa and Chan, 2010; 大澤ほか, 2014; 本報).

生息場所. 泥をかぶった石の下, ホヤ類やカキ類の隙間, 死サンゴの基部, 船底の汚損生物に付着; 潮間帯から水深 68 m (三宅, 1998; Haig, 1981; 1992). 大谷 (2013)は, 「(本種は)潮間帯下部から潮下帯の岩の隙間や転石下, 貝の死骸の中などに生息するが, 船底や海中構造物の汚損生物として発見されることが多い」と述べている. 加えて渡部 (2014)は, 「内湾で深い場所を好むが, 港の浮き桟橋に付着するホヤや二枚貝のすき間にいることもある」としている.

備考. 島根県境水道において底曳網を用いて採集された標本数が 45 個体と多いことから, 局所的に集中して生息していたか, あるいはフトウデネジレカニダマシは, 内湾的環境の潮下帯に棲む, 代表的なカニダマシ類の可能性もある (大澤ほか, 2014).

左右の鉗脚の大きさは異なり, 掌部の背面が外側に傾く. 小鉗脚の指節の状態には性差があり, オスの方がメスより強く垂直方向に開くとともにねじれる.



図 72. *Pisidia serratifrons* (Stimpson, 1858) フトウデネジレカニダマシ, 島根県松江市境水道, メス (cl 8.4 mm), エタノール液浸.

***Porcellanella triloba* White, 1852** ウミエラカニダマシ

(図 73)

調査標本. 島根県. 松江市境水道, ウミエラに付着, 底曳網, 2007年4月11日, 1メス (cl 12.3 mm), SNMH. 松江市境水道, 底曳網, 2010年3月24日, 1オス (cl 12.0 mm), SNMH. 松江市美保関町森山 (境水道), 森山郵便局近く, ウミエラに付着, 2011年9月24日, 1オス (cl 10.4 mm), SNMH.

分布. アフリカ東岸, ペルシャ湾, タイ湾, シンガポール, ベトナム, 香港, 台湾, 日本 (太平洋側: 千葉県から高知県; 日本海・東シナ海側: 島根県, 山口県, 熊本県), オーストラリア (Haig, 1992; 三宅, 1998, *P. picta* Stimpson, 1858 として報告; 大澤, 2000; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 砂泥底, ウミエラ類 (*Pennatula*, *Pteroeides*; 刺胞動物: 花虫綱: 八放サンゴ亜綱) に共生; 潮間帯から水深 72 m (Haig, 1981; Osawa and Chan, 2010).

備考. ウミエラカニダマシの学名は, *Porcellanella picta* Stimpson, 1858 とされていた (たとえば, Miyake, 1978; 三宅, 1998) が, この種は *Porcellanella triloba* White, 1852 の新参異名 (junior synonym) として現在認識されている (Sankarankutty, 1962; Haig, 1981).

ウミエラカニダマシ属 *Porcellanella* White, 1852 には, ウミエラカニダマシとウミシヤボテンカニダマシ *P. haigae* Sankarankutty, 1963 の2種が含まれている. ウミシヤボテンカニダマシは, ウミサボテン類 (*Cavernularia*) に共生し, 鉗脚の長節や歩脚の指節などの形態によって, ウミエラカニダマシから区別できる (Sankarankutty, 1963; Nakasone and Miyake, 1972; 峯水, 2002).



図 73. *Porcellanella triloba* White, 1852 ウミエラカニダマン, 島根県松江市境水道, オス (cl 12.0 mm), エタノール液浸.